

NMT 国臨協関信

関信支部ニュース第233号 令和5年8月



支部HPアドレス
<https://www.kanshinshibu.org/index.html>



支部NEWSアドレス
<https://www.kanshinshibu.org/member/news.html>

●事務局 / 〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1
国立国際医療研究センター病院
中央検査部門内

●発行者 / 吉田茂久
●編集委員 / 齋藤広樹 中村良幸 竹内智也 飯田伊織 鷹取有紀
●印刷所 / 一喜堂印刷株式会社 ☎0268-35-2624



第51回 国臨協関信支部学会

原点 ～いま私たちができること～ 回帰

茨城東病院 新入院・診療棟

開催期間：2023年9月2日(土)

- ・ログイン開始 8:30～
- ・開会式
(オープニングセレモニー) 8:45～

学 会 長：吉田 茂久
(国立病院機構 横浜医療センター)

お問い合わせ

国臨協関信支部 事務局
〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1
国立国際医療研究センター病院中央検査部門内
E-mail: kanshin@kanshinshibu.org

第51回国臨協関信支部学会日程表

ライブ配信 2023年9月2日(土) ログイン開始8:30～

※ EventInへのログインは Chromeブラウザの利用を推奨します。

8:30	《ログイン開始》(8:30～8:45)		
	《オープニングセレモニー》(8:45～8:55)		
	《EventInシステムの簡易説明》(8:55～9:00)		
9:00	《一般演題 口演(3会場)》(9:00～10:40)		
	第1会場	第2会場	第3会場
10:00	《一般演題》 1～5 (9:00～9:50) 生理機能1	《一般演題》 11～15 (9:00～9:50) 生理機能3、 チーム医療	《一般演題》 21～24 (9:00～9:40) 免疫血清、血液、 その他
	《一般演題》 6～10 (9:50～10:40) 生理機能2	《一般演題》 16～20 (9:50～10:40) 病理/細胞診、 遺伝子/染色体	《一般演題》 25～29 (9:40～10:30) 微生物、その他
休憩(10:40～11:00)			
11:00	《学会企画 学術委員会による分科会》 (11:00～12:00) 講演:「バーチャルスライドを用いた症例報告」 講師: 国臨協関信支部学術委員会 検体検査(血液)・細菌検査部門		
12:00	休憩(12:00～12:05)		
	《閉会式》(12:05～12:15)		
12:30	《EventIn自由閲覧・ログアウト》(～12:30)		



支部長挨拶

国立病院臨床検査技師協会
関信支部 支部長
吉田 茂久



令和5年5月8日(月)を締め切りとしてご提出いただいた「電磁的表決における表決」の決議による「第51回国立病院臨床検査技師協会関信支部定期総会」において役員の改選が承認され、今期で3期目の支部長を拝命した横浜医療センターの吉田です。皆様のご指導とご協力をいただきながら支部長の職責を誠実に果たしていく所存ですので何卒よろしくお願い申し上げます。

昨年度の関信支部の活動については、新型コロナウイルスの影響が続き、対面式の学会や研修会、文化活動等が中止されましたが、Web会議システムを活用した活動にシフトチェンジし、そのメリットを大いに感じる事ができた1年間となりました。しかし、その反面で移動すること、集うことが大きく制約されたコロナ禍の3年間で、各地区会の定期総会・研修会や懇親会を通じての人的交流・情報交換などを十分に行うことができず、改めて直接会うことが会員同士の絆や関係(つながり)に果たす役割の大きさを感じています。猛威を振ったコロナ禍も完全な終息とはなっていませんが、コロナウイルスの扱いも5類となり、感染予防対策も徐々に緩和され、途絶えがちになっていた交流も少しずつではありますが再開されることが予想されます。役員一同、気持ちを新たに「将来の国臨協関信支部の在り方」を見据えて、基本的にはコロナ禍以前と同様に、会員一堂に会しての開催(リアル)の実現を目指して誠心誠意、力を尽くして取り組んで参りますので、ご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、今期は役員が3名入れ代わりしました。新理事2名は栃木地区会長、千葉地区会長のご協力を得て、今年度も10地区会に原則1名の理事を配ることができました。また、支部事業運営全般の責任者となる事務局長が2年ぶりに交代となります。後任はNHOさいがた医療センターの白井洋平氏が務めます。理事の経験はありませんが、学術委員会発足時から委員として学術活動に携わっていただきました。学術委員会での経験を活かして、ボトムアップにつなげていただければと思います。新理事については、至らない点も多々あるかと存じますが長い目で見守っていただければ幸いです。

今年度の新事業は、(1)関信支部ホームページに「会員の皆様の声」募集送信プラットフォームを新設しました。会員の皆様方から幅広くご意見、ご質問、ご要望などをいただくことで支部活動の質の向上に向けて役立ててまいります。「会員の皆様の声」の設置規程はホームページ(関信支部規約類)でご確認ください。(2)関信支部ホームページ関連業務の外部委託化に関する調査(期間:5月~12月まで)を行います。目的は会員の皆様方の利便性の向上と役員の業務負担の軽減を図るため、外部委託(またはシステム改修を含む)を念頭に実施します。調査結果は令和5年度地区代表者会議(2024年1月初旬開催)にて調査内容の報告を行い、第52回国立病院臨床検査技師協会関信支部定期総会に令和6年度新規事業(案)として提出するか判断する予定です。継続事業は、(1)昨年に引き続きWeb会議システム(ZoomProウェビナー)を支部・地区会運営や学術研修会(ライブ配信・オンデマンド配信)などに活用を促進します。(2)広報活動はホームページやSNSなどを用いて情報を得る手段(媒体)が多様化していることや、会員の手に取って読んでもらえるために個性を出し、読みやすさ&伝わりやすさを意識した内容の会誌にリニューアルを行うため、支部ニュース(紙面発行)の発行回数を年3回に変更し、役員の業務負担の軽減化と経費の節減を図ります。是非、手に取ってご愛読いただけます様をお願い致します。(3)9月2日(土)第51回国立病院臨床検査技師協会関信支部学会をWeb(EventIn:多機能型イベントプラットフォーム)を用いて、テーマを「原点帰帰~今、私たちにできること~」として開催します。学会への参加は新しい気づきが生まれる機会ともなります。興味ある発表をたくさんご視聴いただき、できればときおり質問をしてみるのも良いかもしれません。質問は「素朴な質問」でも良いですし「わからないこと」「もっと知りたいこと」でも大丈夫です。また、新人職員の方々は学会参加を通じてワクワクするだけでも構いません。多くの会員の皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

最後に令和5年度も地区会、国臨協本部、技師長協議会、関東信越グループ専門職等と協力し、会員の皆様方からの声を真摯に受け止めて一歩一歩着実に支部活動を進めてまいります。これまで以上のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第3回 国臨協関信支部主催研修会

参加者
comment



NHO 渋川医療センター
野崎 未来

令和5年2月28日(火)～3月27日(月)の期間で、令和4年度第3回国臨協関信支部主催研修会「検体検査における結果報告のポイントおよび精度管理の基礎を学ぶ」がオンデマンド配信にて開催されました。

第1部では「その結果、医師に説明できますか?」をテーマに検体検査における結果の解釈について、分かりやすくご講演いただきました。日常業務では生理検査を担当している自分にとって、日当直で検体検査を実施した際に、検査結果に不安を覚えることも多く、結果の考え方やどのような点に気をつけて結果報告をするかなど、今回の研修で学ぶ点が多くありました。検査結果に疑問を持った場合、その疑問点から考えられることを洗い出し、患者病態やその他の結果との整合性が図られているのかを、結果が出てから報告をするまでの短い時間の中でアプローチしなければなりません。研修会では、実際の症例解析を紹介していただき、自分の持っている知識を患者データから得られる情報と結びつけるといったプロセスが症例解析の第一歩であると学ぶことができました。そのためには、より深い知識を持ち、多角的視点で検査結果を捉えることが大切であることを改めて実感しました。

今回の研修会を通じて、検査結果と患者病態との関連や考え方について学びましたが、このような物事の考え方は検体検査だけではなく、どの部門においても重要であると感じます。普段から「何故この結果なのか」と考える癖をつけておくことが、検査や病態についての理解を深め、検査技師として成長する糧になると再認識することができました。

最後になりますが、ご多忙中ご講演いただきました先生方、ならびに本研修会の企画・運営にご尽力いただきました国臨協関信支部役員の皆様には厚く御礼申し上げます。



NHO 千葉医療センター
中原 瑞稀

令和5年2月、オンデマンド配信にて第3回国臨協関信支部主催研修会に参加しました。「精度管理の考え方の基礎」について拝聴し、今後の精度管理業務をより深く取り組むことができました。

私は技師3年目で今まで一般検査を中心に業務を行ってきました。今年の4月より転勤を契機に生化学検査を中心に検体検査に従事することとなりました。精度管理に本格的に触れるようになるため、勉強のため研修会に参加しました。

精度管理を行うにあたり、かたより・ばらつきなどで管理内から外れた時は、なぜ管理幅から外れるんだと日々落胆しますが、試薬を変えたタイミングやロット変更などを加味し原因を考えて対策方法を身につけていきたいと思っています。

また、現在メーカーサーベイや各学会の外部精度管理にも積極的に取り組んでいます。測定結果におかしなところがあれば患者さんに提供する検査結果に誤りがあることとなります。患者さんがどの病院に行っても同じような検査結果が得られ、同じ治療を受けられる為にも外部精度管理の重要性を考えながら日々取り組んでいます。

コントロールを測定し、試薬等の品質を保っていることを確認することで検査結果の正確性・精密性を保証する裏づけになることを改めて感じました。今後も、精度管理について検査に関連する研修会があれば積極的に参加し自身のスキルアップに繋げていきたいと思っています。

最後になりましたが、今回の研修でご講演いただきました国立がん研究センター東病院の秋江先生、アボットジャパン合同会社の村上先生、ならびに国臨協関信支部役員の皆様には厚く御礼申し上げます。

令和5年度
新人研修に参加して



NHO 横浜医療センター
森 真衣子

令和5年5月16日～18日に、Webexを利用した「令和5年度 医療技術職員等新採用職員研修・新採用事務職員研修」に講師として参加させて頂きました。2日目の先輩方からの提言「新採用職員として必要なこと」について、1職種10分程度の講義をいたしました。

自施設の紹介や、臨床検査技師の紹介に加え、新採用職員に必要なこととして、情報共有などの「コミュニケーション」と、資格の取得や学会発表などに「意欲的に取り組むこと」の2つを取り上げて発表しました。

報・連・相などといったコミュニケーションは、基本中の基本ではありますが、新採用時の慣れない環境では疎かになってしまうこともあるかもしれません。私自身も報告や相談をせず、インシデントに至ってしまった経験があり、そういった事例を簡単に報告させて頂きました。少しでもコミュニケーションの重要性を感じて頂ければと思います。

次に、資格の取得について、一例として私の経歴をお話させて頂きました。資格を取りたいと考えていても、具体的に何をすればいいのか迷っている人は少なくないと思います。質疑応答でも資格に関する内容が取り上げられており、そのような方々の参考になっていければと思います。

発表を通して、自分の新採用時を振り返り、初心にかえる良い機会になりました。また、他職種の方々の発表でも様々な意見が挙げられていて参考になりました。Web形式ではありましたが、質疑応答も盛んに行われる非常に有意義な研修と感じました。

最後になりますが、本研修会を開催・運営して頂いた関東信越グループの皆様にご心より感謝申し上げます。今回の講義内容が、少しでも新採用職員の方々の役に立てていければ幸いです。



NHO 沼田病院
用田 史絵

令和5年5月16、17日の2日間に渡り、医療技術職員等新採用職員研修がWeb形式で開催されました。1日目は国立病院機構の概要についてと、接遇、ストレスマネジメントについての研修、2日目は各職種の先輩方からの提言の聴講と、班別討議を行いました。

先輩方からの提言では、認定資格取得への努力やその経緯についてお話を伺いました。これにより、自分が理想とする検査技師像や現在の課題に向き合うきっかけを得ることができました。現在は業務の習得に集中していますが、これらの経験が臨床検査技師としての基盤となり、将来的には認定資格の取得に繋がるように努力を積み重ねていきたいと思っています。また、他職種の方々からの話を通じて、普段は知り得ない業務内容などを学ぶことができ、新鮮な経験となりました。

班別討議では、私たちのグループでは「喧嘩している二人を同時に笑顔にする方法」「国内旅行でおすすめの場所」について多職種で構成されたグループで話し合い、発表しました。様々な意見の中から討議を通じ結論を導くことは、医療現場において必要な柔軟性、想像力、協調性に繋がると感じました。また、私は現在NSTの一員として活動していますが、その中で他職種との連携の必要性を強く感じていました。今回の討議を通じて得たコミュニケーションの経験を、今後の業務に積極的に活かしていきたいと思っています。

今回はWeb形式での開催でしたので、参加者同士で同じ場所や空間を共有することができず、少し残念な気持ちもありました。今後は集合型の研修会等が開催された際には、皆様と直接お会い出来ることを期待しています。

最後になりますが、ご多忙の中ご講演いただきました講師、先輩方ならびに企画、運営して下さいました関東信越グループの皆様にご心より感謝申し上げます。



認定資格でLEVEL UP



細胞検査士認定試験を終えて

国立国際医療研究センター病院

林 愛理



私は入職時から細胞検査士に憧れており、2022年度の「細胞検査士認定試験」を受験し、合格することができました。

細胞検査士になるには、年に一度開催される細胞検査士認定試験に合格する必要があります。試験内容は一次試験（筆記120問、画像問題60問）、二次試験（スクリーニング、同定各30問）です。

筆記試験は過去問から類似問題も出題されているため、過去5年分以上は問題を解いておくといいと思います。また、規約からも出題されるため、目を通しておく必要があります。二次試験の実技試験は、コロナウイルスの影響で鏡検のみでした。鏡検時間は同定1問1分30秒、スクリーニング1問5分（回答時間含む）でした。

試験勉強をしていると心が折れそうになることもあ

ると思いますが、私は細胞検査士になった自分を想像し、モチベーションを保ちながら、日々の試験勉強に取り組みました。

私が勉強していた病院は病理医が週に一度診断してくれる施設です。細胞診は殆どが妊婦検診の検体で、勉強するには必ずしも恵まれた環境とは言えないかと思っています。しかし、自主学習のほかに、様々な勉強会に参加することで知識の幅を広げました。今年度から、国立国際医療研究センター病院でお世話になることとなり、多くの症例を経験できる機会に恵まれたため、しっかりと実力をつけていきたいです。

最後に、細胞検査士認定試験を受験するに当たり、ご指導いただきました諸先輩方に改めて感謝申し上げます。資格を取得し、細胞検査士としてのスタートラインに立つことができました。今後は先輩方のような細胞検査士を目指し、今まで以上に勉学に励み、日々の業務に精進してまいります。

細胞検査士を取得して

NHO 水戸医療センター

國嶋 雄太



令和4年12月16日に実施された第55回細胞検査士認定資格試験を受験し合格いたしました。

細胞診の資格取得を目指したきっかけは、病理検査室の先輩から「せっかく病理に配属されたのなら何か資格の一つでも取得すれば」の一言から始まりました。今までは、生化学検査を担当していたため、病理や細胞診の知識はほとんど忘却しており、全てが一からで「取り扱い規約って何？」という状態でした。

一次試験対策は「細胞診を学ぶ人のために」と「スタンダード細胞診テキスト」を基礎的な知識の糧に、「細胞像試験問題集」を画像問題対策として使用しました。また、過去問を5年分解き、各臓器の癌取り扱い規約や参考書を読みまとめ、一次試験は無事合格できました。一次試験の内容として、総論、技術、体腔液・尿・その他、呼吸器、消化器、婦人科の6分野を各20問で各問5択から1～2個の解答を選択。画像問題は60問で各問5択から1個の解答を選択する試験でした。

二次試験対策は、業務中に細胞診標本を鏡検する余

裕はなく業務終了後の数時間と、当院は婦人科がなく、症例数も多くないため、1か月に1度、他施設に赴き標本を鏡検させていただきました。また、鏡検する機会が少ないため、標本一枚に多くの時間を要していましたが、先生方から「速さはそのうち身につくから」とスピードより量を見ることを勧められました。使用した参考書の一部として婦人科はベセスダシステム、尿であればパリシステム、唾液腺であればミラノシステムなど、一部臓器は標本の適・不適や診断基準などが詳細に書かれており、一通り理解して試験に臨みました。二次試験の内容として、4分画された標本のスクリーニング25枚を各5分と、同定問題30枚を各1分で行われました。コロナ禍のため、面接と標本作製の実技試験は実施されませんでした。

以上、少ない情報ではありますが、これから認定試験を受験される方々への参考となれば幸いです。

最後に今回試験を受験するにあたり親身になってご指導頂きました職場の上司、先輩をはじめ、多くの先生方に心より感謝申し上げます。これからがスタートであり、日々精進して参りますので、これまでと変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

会員のひろば

「山登り」はじめました。

NHO 相模原病院
池田 和典



「山登りを趣味にしたことで人生が豊かになりました」唐突すぎて、怪しげな広告のような言葉になってしまいましたが、私は山登りを始めたことで仲間が増え仲間との絆も深まりました。登山は人気の趣味としてハマる人が続出しているそうです。私もその1人です。今まで、山登りに興味はあるものの、どこの山にどんな装備を持って行くか検討もつかない状態でした。そんな中、コロナ禍の運動不足解消するため小学校の幼馴染数人が山登りを企画し、参加したことで、すっかり山の魅力にハマってしまいました。この山登りグループは母校の小学校6年2組の同級生たちで構成され、毎年メンバーが増えています。昨年は筑波山に登りクラスメイトの半数が参加しました。その中には70歳になる担任の先生もいます。この筑波山登山は小学校の遠足を思い出されるもので40年ぶりの筑波山は初老を迎える私にとって体力の衰えを痛感するものでしたが当時と同じ仲間と山頂から見た景色は生涯忘れられないものになりました。前置きが長くなりましたが、執筆依頼を受け今回書こうと思ったことは「運動不足やリフレッシュに山登りは最適」ということです。山登りは初期投資も少なく気軽に始められ、歳を重ねても続けられるスポーツです。年齢や体力は関係ありません。

山登りをする動機もひと様々で「ストレス発散」「絶景を観る」「持久力UP」「美容と健康のため」など、それぞれに合った山登りの方法があります。私は会話を楽しみながらの登山が大好きです。幼馴染たちとの山での会話は普段以上に盛り上がりやすいです。思い出話は勿論、景色の話、いろいろな職業の話など、登ってい



る間ずっと話しをしています。街の居酒屋では周囲に気を遣う場面もありますが山では周囲を気にせず、自然に囲まれた心の解放感も加わり、いつも以上に会話が弾みます。幼馴染との山登りでは昔の初恋の話にもなるから面白いのです。話が脱線しましたが、初老の私は衰えた体力の維持のため、若さを保つために「持久力向上」と「ダイエット」を目標に楽しんでいます。しかし、仲間との山登りはダイエットには向いていないかもしれません。皆が持ちよった各地元名産品をいつも以上に食べてしまうからです。仲間と登る山の話はしましたが、ひとり登山も楽しいものです。ひとり登山は豊かな自然に集中ができます。小さな草花や小鳥のさえずり、雲の動きなど、普段は気づかなかった自然の奥深さに触れることも出来ます。日常では仕事や家庭のことで時間に追われストレスを感じることがありますが「ひとりの時間」は心を空っぽにするのに最適です。積み重なったストレスを解消し、リフレッシュするための「ひとり登山」もお勧めです。たくさん魅力がある山登りですが、やはり醍醐味は山頂に着いた時の達成感が一番です。一気に視界が開け、広々とした世界を一望できるのは頑張った山を登った人にしか得られません。「頑張った良かった」と感じるひと時です。この体験は自分の普段の生活にも影響を与えていると感じます。日々の生活で辛いことや挫けそうなことがあった時に、一步一步頂上を目指して頑張った成功経験は励みになり、やる気に繋がります。文字制限がある中、上手に纏められませんが、私がお勧めする「山登りのススメ」になります。まだ、山登りをしたことない人は挑戦してみてください。きっと楽しくて新しい発見があると思います。



第72回 日本医学検査学会 note

NHO 渋川医療センター
新谷 和之



令和5年5月20日、21日に群馬県のGメッセ群馬および高崎芸術劇場において、第72回日本医学検査学会が開催されました。今回、本学会に実行委員（渉外部）として運営に携わった感想をご報告いたします。今回で第72回を迎えた本学会ですが、検査技師歴の浅い関信支部会員の中には、概要や変遷をご存じない方も少なくないと思いますので、簡単にご説明いたします。日本医学検査学会は昭和27年（1952年）に第1回の発足大会が愛知県で開催された後、途切れることなく毎年開催され現在に至ります。日本臨床衛生検査技師会の前身団体である日本衛生検査技術者会が発足されたのが昭和27年ですから、発足とともに歩んできた学会であります。毎年1回各都道府県技師会が担当となり、全国各地を巡りながら開催され、演題数も500演題を超える臨床検査技師が主催する学会では日本最大級の学術振興事業であります。

－関信支部都県における開催状況－

開催地	通算回数	開催回	注釈
東京都	7回	第2、7、10、12、16、50、60回	第60回の担当技師会は長野県
神奈川県	3回	第5、24、58回	第5回のみ小田原市開催 24、58回は横浜市開催
千葉県	3回	第45、66、69回	第69回の担当技師会は福島県
新潟県	3回	第8、20、63回	
長野県	2回	第4、28回	第60回は担当技師会（開催地は東京）
埼玉県	1回	第52回	
茨城県	1回	第39回	
群馬県	1回	第72回	
栃木県	0回		
山梨県	0回		

群馬県では今回初開催となりますが、これまでも平成7年に立候補し落選、平成29年には開催予定ではありましたが、群馬県初の大型コンベンションセンターであるGメッセの建設が決まったことから、急遽千葉県に開催担当をお願いし、今回の開催に至った経緯があります。

悲願の初開催には、群馬県臨床検査技師会（群臨技）だけではなく、行政を巻き込みながらオール群馬で約2年前より準備を進め、年初に開催さ

れた群臨技賀詞交換会においては山本一太知事からも直接激励をいただきました。いくつもの会議や会場視察を経て、いよいよ学会前日よりGメッセに直接入り、最終オリエンテーションや会場準備に励む中で緊張感も増していきました。当日は朝7時に集合し、宮島日臨技会長、井田学会長の激励の下、ついに学会が開幕しました。私自身はGメッセ第5会場（500人ほど収容可能な大きなホールでした）の会場責任者を担当していたため、学会場の隅々まで見学や聴講する時間がなく、学会に参加されていた会員の皆様をおもてなしすることはできなかったのですが、会場の熱気は十分に伝わってきました。また、多くの関信支部会員の方々が、ハンズオンセミナーやシンポジウム等で活躍されていたとお聞きしています。当方が担当する会場においては、パネルディスカッションの形式が開始直前に変わり、壇上の配置やアナウンス内容を急遽変更せざるを得なくなり、寸刻の混乱はありましたが大きなアクシデントもなく、無事に2日間の役務を果たせたと実感しております。学会全体を通して大きなトラブルもなく、成功裏に終わることができたのではないのでしょうか。担当会場が比較的遅い時間までシンポジウム等を開催していたため、公開講演（ハンカチ王子こと斎藤佑樹さんが市民公開企画で対談されました）や情報交換会には出席できませんでしたが、参加された会員の皆様におかれましては、有意義な時間を過ごせたことと存じます。

来年の第73回学会は石川県で予定されていますが、近い将来には関信支部都県での開催もあると予想されます。担当技師会に所属されている関信支部会員の皆様におかれましても積極的に参加し、他施設の技師と交流を図り親睦を深めることを期待しております。



実行委員の名刺、学会参加者への記念品達磨、座長・講演者への記念品扇子（ぐんまちゃん柄）

アフターコロナ通信

post-corona

関信支部長野地区会定期総会・研修会を終えて

令和5年6月17日(土)に信州上田医療センター講堂において第38回国協関信支部長野地区会定期総会および研修会が3年ぶりの集合型で開催されました。今回の長野地区会総会は、関信支部としても新型コロナウイルス感染症の拡大以後、初めて対面で開催された地区会総会であり、来賓として関東信越グループより前島臨床検査専門職、関信支部より齋藤副支部長のご臨席賜りました。

研修会では一般社団法人日本アンガーマネジメント協会認定アンガーマネジメントアドバイザーの濱逸枝先生より「自己認識とモチベーション向上～キャリアドライバーを目標設定に活かす～」と題してご講演をいただきました。私自身や同僚の行動スタイル、どのような価値を重視しているかキャリアドライバーに合わせてコミュニケーションや指導を行うことで、より良い人間関係でモチベーション高く仕事を行っていくことを学びました。今回の講演で心得たことを、今後の目標設定や日々のコミュニケーションに活かしていきたいと思えます。



令和5年度 関信支部長野地区会役員

会長 : 岡村 治 (NHO まつもと医療センター)
 副会長 : 梅戸克之 (NHO 信州上田医療センター)
 理事 : 齋藤広樹 (NHO 東長野病院)
 理事 : 宮坂章平 (NHO まつもと医療センター)
 会計監査: 小関 燈 (NHO 小諸高原病院)

続いて、前島臨床検査専門職から「伝達事項ならびに会員の皆様に向けて」と題して国立病院機構の概要や各種認定試験の取得状況、主任技師任用試験など多くの内容をご講演いただきました。スキルアップのための様々な機会が用意されているお話を拝聴し、各種研修や認定試験などへ積極的に取り組み、自己研鑽に努めていきたいと考えました。

定期総会では平原会長の挨拶に始まり、令和4年度長野地区会活動の内容が報告されました。その後議案審議、新役員の選出が行われ、会員の承認をもって無事に終了しました。

コロナ禍で入職した私にとっては初めての集合型による対面式の地区会でありましたが、今後も地区会の活動を通して会員の方々との親睦を深めていきたいと思っております。

最後になりますがお忙しい中ご講演いただいた前島臨床検査専門職、濱先生、ご臨席賜りました齋藤副支部長、そしてこの会を企画し開催してくださいました長野地区会役員の皆様に心より御礼申し上げます。



NHO 信州上田医療センター
織原 大貴

3年ぶりのリクリエーション交流会開催

コロナの影響で中止されていた地区会交流会が、3年ぶりに令和5年7月1日(土)新潟市のグランドボウル黒崎で開催されました。この交流会開催にあたっては、前日の金曜日まで判断が出来ませんでした。開催日の天気予報で警戒レベル豪雨が発表されており開催が危ぶまれていましたが、朝までにピークが過ぎる天気予報とのことで開催することとなりました。

当日会場に着くと久しぶりに会う話で盛り上がり3年ぶりの交流会は、ボウリング大会で12名の参加、施設混合4チームに分かれゲームを楽しみました。ゲーム後に表彰式はありましたが、コロナの事もあり懇親会を行うことは出来ませんでした。今回、転勤してきて初めて顔を合わせて話をできた楽しい一日でした。次は新潟地区会総会で会うことを楽しみにしています。



NHO さいがた医療センター
竹内 英規

学術のススメ



支部ニュースの新たなコンテンツとして、会員の皆様に様々なかたちで学術情報を紹介するコーナーとして「学術のススメ」を掲載していきます。

第1回として、国立病院の検査技師が中心となって開催している染色体遺伝子検査基礎技術セミナーについて紹介させていただきます。また、セミナーに参加された感想も一緒に掲載します。

近年では、遺伝子分野における NGS、デジタル PCR 等の解析技術の進歩と共に、遺伝子変異と疾患に関する研究が飛躍的に進み、そのメカニズムおよびチロシンキナーゼ阻害薬をはじめとする分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬などの治療に関わる多くの研究成果が報告されています。臨床検査の現場においても、検体検査、病理検査では NGS パネル検査、造血管腫瘍遺伝子検査、カルタヘナ法対応検体の取り扱いなど、実務として遺伝子分野の業務をおこなっており、さらに生理検査においても先天性心疾患、ファミリー病をはじめ遺伝性疾患や染色体異常症の患者さんと関わる機会も増え、遺伝子に関する知識は医療の現場では必要不可欠なものとなっています。

第38回染色体遺伝子検査基礎技術セミナー (Web) 案内

今回のセミナーでは、「がんゲノム」をテーマに、セミナー前半は、がんゲノム医療の現場が実際に直面している課題に関する、後半は、がんゲノム医療の現場から最新の検査技術、新たな検査機器、最新の課題解決の取組になる17 最新のリアルタイムへの希望を聴いて、見て、知る！

日時：2023年6月17日(土) 13:00～16:50
 参加費：無料 ※当日のご参加をお願いいたします。

会場：国立国際医療研究センター 3 階 日本臨床検査技師協会 5 階 研修 研修 10 号 認定臨床遺伝子検査センター 研修室 3 号室

13:00 開会挨拶
 13:05 学会からの挨拶
 13:10 「がんゲノム医療中核拠点病院の取組みと病種別検体の種類と品質」 国立がん研究センター 長岡 中村 信之先生
 13:45 「がんゲノム医療中核拠点病院の取組みと細胞診検体の有用性」 山梨県立中央病院 藤家 健司先生
 14:20 「がんゲノム医療連携病院の取組みと病理組織検体作製の留意点」 新潟県立がんセンター 新潟病院 村上 公子先生
 14:55 「衛生検査所のがんゲノム医療への取組み」 株式会社理研ジェネシス 廣ひとみ先生
 15:30 ディスカッション
 15:50 (休憩)
 16:00 がんコンパストリアルヘルスデータ分析プラットフォーム 鈴木 史郎先生
 16:25 GenMentorP がんゲノムプロファイル解析システム 株式会社 REALM 株式会社 香根 正昭先生
 16:50 閉会

参加申込方法：Microsoft Teams ウェビナーで開催します。

参加申し込みURLより参加の申し込みをお願いします。参加費が無料メールアドレスに届きますので、当日、時間になりましたら下記「Teams Web会議参加方法」に従って入室してください。

参加申し込みURL：https://events.teams.microsoft.com/event/62616188-2b7e-4af9-909c-3a3ab9a9c729?669a9d-5647-4d63-8b21-4b8945373272

■ 日臨床検査技師会 参加証の入手方法
 会期中 <https://www.jam.or.jp/> の「セミナーのご案内」(第38回染色体遺伝子検査基礎技術セミナー) から「日臨床検査技師会」参加証の申請ボタンをクリックしてください。
 QRコードが取得できたら、QRコードをスマートフォンで読み取ってください。
 日臨床検査技師会に必要事項を記入の上、参加申し込みURLより届けていただく必要があります。
<https://www.jam.or.jp/confirm/> に送付してください。

主催：日本染色体遺伝子検査学会 関東甲信支部
 問い合わせ先：国立国際医療研究センター 研修部 研修室 10 号 認定臨床遺伝子検査センター 研修室 3 号室
 電話：03-6861-1111 内線 2222
 電子メール：genetic@nhi.go.jp

本セミナーは国立がん研究センター中央病院検査科遺伝子検査室の日本染色体遺伝子検査学会の理事を務める検査技師が中心となり遺伝子分野の企業と共に2012年より病院大会議室にて現地開催している参加費無料の勉強会です。内容は染色体・遺伝子の基礎知識・技術、新しい技術・検査機器の情報、遺伝子関連資格の試験対策など幅広く、年4回開催し、全国よりたくさんの方が参加しています。また、日臨技の生涯教育、臨床細胞遺伝学認定士、認定臨床染色体遺伝子検査師の単位も取得できるとのことです。

現在は、コロナ禍により現地開催が難しいことから、国立国際医療研究センター病院の同学会理事を務める検査技師と協力し、国立国際医療研究センターから Teams ウェビナーとして全国に発信しており、毎回200名ほどの方が参加しています。

日常の臨床検査の基礎知識の向上と、遺伝子関連の資格取得を目指して、参加してみたいかでしょうか。

No.
Date

第38回染色体遺伝子検査基礎技術セミナーに参加して



NHO 下志津病院
菅野 優

2023年6月17日(土) 13:00～16:50に、日本染色体遺伝子検査学会関東甲信支部主催の「第38回染色体遺伝子検査基礎技術セミナー」にWeb参加しました。このセミナーはがんゲノムに関する内容で、がんゲノム医療に携わる4つの施設(がんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム医療拠点病院、がんゲノム医療連携病院、衛生検査所)の立場から、がんゲノム医療の取組みや課題が紹介されました。また、株式会社DNAチップ研究所やコニカミノルタ REALM 株式会社からは、がんゲノム検査の特徴や将来展望について情報提供して頂きました。

がんゲノム医療中核拠点病院である国立がん研究センター東病院の中村信之先生の講演では、ホルマリン固定時間の管理や、乳腺の手術の際は臓器摘出後から固定までの時間(冷虚血時間; cold ischemic time)の管理を詳細に解説して頂きました。そして、衛生検査所の株式会社理研ジェネシスの講演では、マイクロダイセクションのマーキングの留意事項について紹介があり、今後業務に役立てて実践していきたいと思います。

がんゲノム医療は次々と研究成果が報告されており、常に最新の知識を学ぶ必要があると強く感じました。

最後に、ご多忙の中ご講演いただきました先生方、ならびに企画・開催していただきました日本染色体遺伝子検査学会関東甲信支部役員の皆様、関信支部ニュースにレポート掲載の機会を与您えくださった国臨協関信支部役員の皆様に厚く御礼申し上げます。

新理事紹介

NHO 栃木医療センター

人見 香奈



この度、国臨協 関信支部、事務局担当理事を仰せつかりました人見と申します。不慣れではございますが、関信支部会員の皆様のお力になれます様、微力ながら尽力させていただき所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

NHO さいがた医療センター

白井 洋平



この度、関信支部事務局長を拝命いたしました、白井と申します。このような大役を仰せつかり、身が引き締まる思いです。至らぬ点多々あるかと存じますが、円滑な支部運営の為に尽力して参りますので、よろしくお願い致します。

国立がん研究センター東病院

矢崎 裕一郎



今年度より関信支部の学術を担当させていただくことになりました、国立がん研究センター東病院の矢崎と申します。支部会員の皆様には学会や研修会に興味を持って参加していただけるように、微力ながら尽力させていただき所存です。至らない点多々あるかと存じますが、よろしくお願い致します。

令和5年度役員一覧

役職名	氏名	施設名	所属地区会名	役職名	氏名	施設名	所属地区会名
支部長	吉田 茂久	NHO 横浜医療センター	神奈川県会	理事	千木良浩志	国立がん研究センター中央病院	東京地区会
副支部長	椎名 将昭	NHO 水戸医療センター	茨城地区会	理事	渡辺 順也	国立国際医療研究センター病院	東京・山梨地区会
副支部長	齋藤 広樹	NHO 東長野病院	長野地区会	理事	矢崎裕一郎	国立がん研究センター東病院	千葉地区会
事務局長	白井 洋平	NHO さいがた医療センター	新潟地区会	理事	中村 良幸	NHO 西新潟中央病院	新潟地区会
理事	井田 貴明	NHO 相模原病院	神奈川県会	理事	飯田 伊織	NHO 西埼玉中央病院	埼玉地区会
理事	人見 香奈	NHO 栃木医療センター	栃木地区会	理事	鷹取 有紀	NHO 高崎総合医療センター	群馬地区会
理事	秋山 卓思	NHO 横浜医療センター	神奈川県会	監事	小沼 進吉	NHO 東埼玉病院	
理事	竹内 智也	NHO 横浜医療センター	神奈川県会	監事	遠藤 隆	NHO 甲府病院	
理事	山口 卓哉	NHO 東京病院	東京地区会	相談役	前島 基志	NHO 霞ヶ浦医療センター	



今年度は全10地区より理事が選出されております。地区会との連携をより一層深めていきますので、今年度もよろしくお願い致します。

写真大募集

関信支部ニュース234号(新年号)の表紙写真を会員の皆様から募集いたします。採用された方には粗品を進呈いたしますので奮ってご応募ください。

募集期限は11月30日(木)まで

宛先：高崎総合医療センター 鷹取有紀

Email : takatori.yuki.hu@mail.hosp.go.jp

訃報

白鳥克幸氏(国立国際医療研究センター病院)が逝去されました。認定輸血検査技師として支部の輸血検査・輸血医療の発展と普及に寄与されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



解答・解説は関信支部 HP に掲載いたします。

Question 急性腎障害 (AKI) 症例の検査結果です。検査結果を見て問題について考えてみてください。

〈症例〉50代女性、肺癌治療中。夜間救急外来を受診した際の検査結果。

〈検査結果(抜粋)〉

生化学	単位	1週間前	当日	尿検査	単位	1週間前	当日	尿沈渣	単位	1週間前	当日
TP	g/dL	6.2	4.9	色調		淡黄色	淡黄色	赤血球	/HPF	1-4	1-4
ALB	g/dL	3.2	2.1	混濁		透明	濁	白血球	/HPF	1-4	20-29
T-Bil	mg/dL	0.4	0.5	比重		1.009	1.022	扁平上皮	/HPF	< 1	< 1
UA	mg/dL	7.9	15.9	pH		5.5	5.0	尿路上皮	/HPF		1-4
BUN	mg/dL	21	67	PRO		1+	1+	尿細管上皮	/HPF	1-4	5-9
CRE	mg/dL	1.32	3.26	GLU		-	-	硝子円柱		1+	3+
Na	mmol/L	142	129	KET		-	1+	上皮円柱		-	1+
K	mmol/L	3.6	4.4	OB		-	-	顆粒円柱		-	1+
Cl	mmol/L	99	90	BIL		-	-	細菌		-	2+
AST	U/L	21	34	NIT		-	-	コメント			尿量:3mL
ALT	U/L	13	11	WBC		-	1+				
ALP	U/L	88	91	URO		±	±				
LDH	U/L	153	222	U-Na	mmol/L		17				
GLU	mg/dL	116	99	U-K	mmol/L		97				
CRP	mg/dL	1.81	13.83	U-UN	mg/dL		265				
				U-CRE	mg/dL		188				

〈前回のおさらい〉

今回は②でAKIの定義に当てはまる

AKIの定義：①～③のいずれかを満たすこと
① S-Cr値が48時間以内に0.3 mg/dL以上上昇
② S-Cr値が7日以内の測定値もしくは予測される基礎値の1.5倍以上 基礎値：eGFRが75 mL/min/1.73 m ² となる
③尿量<0.5 mL/kg/hrが6時間以上継続 (60 kgの人なら尿量<30 mL/hr)

- 問題① 本症例は腎前性、腎性、腎後性のうち、どれに分類されると思いますか？
- 問題②他にどんな検査項目に異常があると考えますか？
患者情報はほとんど記述していないので、自由に考えてみてください。
- 問題③電子カルテにはどんな記述があると思いますか？ 例)尿が出ない

人事異動 (令和5年4月2日～令和5年7月1日付)

辞令交付日	異動内容	氏名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
4月4日	採用	大田 佳秀	東京医療センター	非常勤		
		小林 ひかる	東京医療センター	非常勤		
4月16日	採用	永沢 美樹	国立がん研究センター中央病院	非常勤		
		中西 一哉	国立がん研究センター中央病院	非常勤		
4月30日	退職	西野 香織			茨城東病院	非常勤
		鈴木 竜斗			茨城東病院	非常勤
		石井 碧夏			栃木医療センター	期間職員
5月1日	採用	鈴木 竜斗	水戸医療センター	技師	茨城東病院	非常勤
		伊勢谷 洋平	茨城東病院	非常勤		
		島田 智子	埼玉病院	非常勤		
		岡田 莉朋	国立がん研究センター中央病院	非常勤		
6月1日	採用	外崎 菜智	宇都宮病院	非常勤		
6月15日	退職	佐藤 慶和	西埼玉中央病院	非常勤		
6月15日	退職	花澤 琢也			国立がん研究センター東病院	技師
6月27日	退職	白鳥 克幸			国立国際医療研究センター病院	主任技師
6月30日	退職	川尻 公樹			宇都宮病院	主任技師
		齋田 葉			埼玉病院	技師
		外崎 菜智			宇都宮病院	非常勤
		小俣 朱加			国立国際医療研究センター病院	非常勤
7月1日	配置換え	加山 新菜	埼玉病院	技師	神奈川病院	技師
		古川 菜生	神奈川病院	技師	千葉東病院	技師
7月1日	採用	外崎 菜智	宇都宮病院	技師	宇都宮病院	非常勤
		高田 一慎	埼玉病院	技師	国立がん研究センター東病院	非常勤
		山崎 嘉己	千葉東病院	技師		
		星 伶司	国立がん研究センター東病院	技師		
		中谷 幸江	国立がん研究センター東病院	非常勤		
		小俣 朱加	国立国際医療研究センター病院	期間職員	国立国際医療研究センター病院	非常勤

お詫びと訂正 関信支部ニュース232号(4月発行)におきまして、内容に掲載漏れがございました。4ページ「定年を迎えて」にて、国立がん研究センター中央病院の高田貴子様が漏れておりました。今後このようなことのないよう掲載リストの作成方法を改善させていただきます。つきましては、修正した内容をホームページに掲載させていただきます。国立がん研究センター中央病院高田貴子様ならびに会員の皆様には多大なるご迷惑をおかけしますことを深くお詫びいたすとともに、今後このようなことがないよう努めてまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

編集後記 5月に群馬県で開催された「第72回日本医学検査学会」に参加しました。COVID-19の5類感染症移行後、初となる開催とあって多くの参加者が集い、成功裏に閉会したと伺っています。実行委員等でご尽力くださった会員の皆さま大変お疲れ様でした。私も久しぶりに多くの方々にお会いすることができたことを大変うれしく感じました。さて、9月2日には「第51回関信支部学会」が昨年同様Web配信ツールEventInを用いて開催されます。対面型には及びませんが、昨年以上に趣向を凝らして、あたかも現地開催されている学会に参加しているような感覚を体現できるように企画を進めております。皆さまも是非参加して、体感してください。広報 中村